フォーカス　奥出雲創生の現在地

「雲州そろばん」

第53回雲州そろばん珠算競技大会が、8月3日に、町商工会と雲州算盤協同組合の主催により4年ぶりに開催され、全国から約208名が参加しました。

この大会は、伝統産業である雲州そろばんを通じた地域振興のほか、そろばん技術の向上と基礎学力の増進を目的としています。

競技は、個人競技と種目別競技があり、個人競技では、乗算・除算・見取算・見取暗算の合計点で競い、種目別競技では、読み上げ算・読み上げ暗算・フラッシュ暗算があり、それぞれの部門で上位を決定します。

参加者は、日頃の成果を充分に発揮するため、真剣にそろばんと向き合いました。

今月号では、国の伝統的工芸品に指定されている「雲州そろばんを学ぶ人」について特集します。

子どもの計算力を伸ばす

町内には、5か所のそろばん教室があり、日々、子どもたちがそろばんの技術を磨いています。

自分のペースで問題に挑む

三成のそろばん教室では、2～6年生までの22名が学んでいます。高橋真奈美先生の「見取り算、7分計ります」の掛け声で、それまで賑やかだった教室が静まり返り、集中して問題に挑みます。その一方で、そろばんを学んで間もない2年生は、珠のはじき方を、簡単な足し算や引き算で学んでいきます。学校とは異なり、みんなで同じ事について勉強するのではなく、個人のレベルに合った問題を解いていきます。

人と人との関わりの場でもある　そろばん教室

もちろん先生が、わからない所を丁寧に教えてくれるのですが、上級生が下級生を教えることもあり、勉強する場だけではなく、他学年との交流の場にもなっています。

基礎的な計算の繰り返しが、地頭を鍛える

子どもたちにそろばんを教える高橋先生は、「そろばんは、計算力だけでなく、あらゆる学習の基礎である『考える力』や『物事の感覚をつかむ力』を育てることに効果的です。この力を身に付けるため、そろばんの繰り返し学習により、地頭を鍛えることが必要です。」と話されました。

子どもたちは、現在、そろばんにより地頭を鍛えて人間の幹を育てる大切な時期。将来、どのような花が咲くでしょうか？

珠算式暗算で問題を解く様子

大人もそろばん

「今日も楽しくそろばんします。パチパチはじけば脳元気！ワッハッハッハッハー」

この掛け声とともに始まったのが、毎週火曜日に伝統産業会館で行われる、「大人のそろばん教室」です。元々、そろばんが、認知症予防にどれだけ効果があるかを測定するために開かれた「大人のそろばん教室」ですが、今では大人の習い事となり、約10名の生徒の皆さんが集まります。

ハイレベルな計算力

まずは、読み上げ算から。計算は、1桁から13桁までに及びます。先生の「○桁から始めます」の合図に合わせ、生徒の皆さんは真剣な眼差しで、そろばんに向かいます。先生の発する数字を、聞き逃さないよう、素早く数字をそろばんに入れていきます。そして、計算をして出た答えを、みんなで読み上げていきます。約30分の読み上げ算をこなした後は、休憩時間となり、先ほどとは打って変わって、笑い声の絶えないにぎやかな時間となります。

何故、そろばんを学ぶのか？

生徒のみなさんへ、そろばんを習い始めた理由を聞いてみました。「そろばんをするのは、認知症予防！頭の体操です」「そろばんをする時、集中します。集中した後、気持ちがすっきり爽やかになって気持ちがいいんですよ」という回答が返ってきました。

中には、「女学生に戻った気分♪」という声もありました。

大人のそろばん教室を主宰する佐伯とも美先生は、「この教室は、誰かと競うことを目的としておらず、自分と向き合う時間です」と話されました。

読み上げ算に挑む様子

そろばんの珠を弾く音だけが響き渡る

いくつになっても学ぶ気持ちを忘れない

休憩時間後は再びそろばん。次は、先生が準備した問題をひたすら解いていきます。

ほとんどの方が、学生時代に「少しやった」という程度。「大人のそろばん教室」に入り、掛け算、割り算だけでなく小数の計算やルートの計算を勉強した方ばかりです。今では、家計簿も電卓より、そろばんの方がやりやすいと声を揃えて言われました。

「大人のそろばん教室」では、人生経験豊富な皆さんが、新しい学びに挑んでおられました。

そろばんに興味のある方は、是非「大人のそろばん教室」に足を運んでみてはいかがでしょうか？

雲州そろばん、海を越えて

2022年、夏。フランスでそろばん講師をしているノアック寿栄(すえ)さんから、トーゴにそろばんを寄附してほしいと依頼が本町にありました。

雲州そろばん、フランスへ

10年以上前、ノアックさんは、フランスの小学校で7クラス約245人にそろばんを教えることとなりましたが、そろばんの調達方法について悩んでおられました。その時に、領事館から、本町が使用していないそろばんを手入れし、海外でそろばんを普及活動している人に寄贈しているという話を聞かれました。これをきっかけに、本町はそろばん50丁と教師用の大きなそろばんをフランスに寄贈することとなりました。

そろばんによって繋がる新たなご縁

ある日、ノアックさんのもとに、フェイスブックを通じて、アフリカ・トーゴでそろばんを教えるケケリ先生からそろばんに関する相談メッセージが届きました。ケケリ先生は、「算数嫌いの子が多いトーゴで、そろばんを使った教育を進めたいけれど、そろばんが不足している」という内容でした。ノアックさんは、以前、本町からそろばんを譲り受けたことを思い出し、トーゴへの支援を本町に依頼されました。そして、トーゴへのそろばん支援に賛同した本町が、2023年5月、60丁の雲州そろばんを手入れし、トーゴへ送りました。

ケケリ先生とそろばんの出会い

ケケリ先生は、ガーナでフランス語教師をしている時にそろばんに出会い、魅了され、独学されました。トーゴにはそろばんが存在しません。しかし、トーゴには「旅の途中で何か美しいものを見つけたら、家に持ち帰り家族と分かち合いなさい」ということわざがあるそうです。このことわざの通り、ケケリ先生はトーゴに帰り、大工にお願いをして、教師用の大きなそろばんを作ってもらったり、フランスの友人にそろばんを買ってもらうなどし、そろばんを集め、孤児院や学校でそろばん体験授業を開催されました。子どもたちは、そろばんを使って計算ができるととても喜んでいたようです。

雲州そろばんに触れて

トーゴの子どもたちは、雲州そろばんの美しさと高品質であることに驚いていたそうです。そして、インターネットで奥出雲町やそろばんの歴史について学びました。

今後、トーゴの子どもたちが数学の基礎を身に付けることができるようそろばんを使って学ばれます。

このように、本町で眠っていたそろばんが、海を渡り、海外で活躍しています。

ケケリ先生

トーゴの子どもたちがそろばんの歴史を学ぶ様子

トーゴの子どもたちがそろばんを学ぶ様子

そろばんを受け取ったトーゴの子どもたちの様子

子どもたちに聞いてみました！！

何故、そろばんを習い始めましたか？

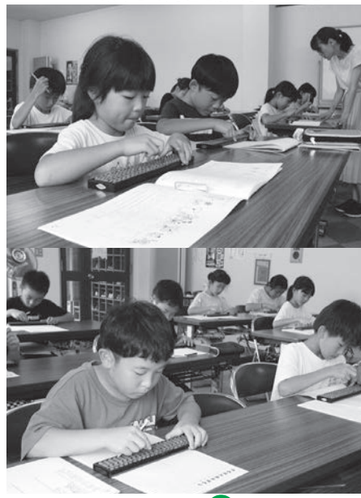
「計算が苦手だったから」
「おじいちゃんやおかあさんがやってたから」

そろばんを習い、計算力はどうなりましたか？

「難しい問題でもできるようになった」
「計算のスピードが上がった」

そろばんのどんなところが好きですか？

「珠を弾くところ」
「数字がおもしろく感じるところ」
「難しい問題にチャレンジするところ」



集中して問題を解く子どもたち